

算数科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 昨年度に引き続き児童の習熟度に応じた指導や算数的活動を積極的に取り入れることで、算数を学ぶよさを実感し、意欲的に取り組む児童が増えた。
- 授業中や算数補習などで、繰り返し計算練習に取り組むことで、中学年までは基本的な四則計算については概ね理解している。

(2) 課題

- 昨年度に比べ公式の意味や性質などを理解が不十分な児童が高学年に多くみられる。
- 昨年度に比べ既習事項を基にして、筋道を立てて説明するような問題を解く力が弱い児童が多い。

2 観点ごとの実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・10までの数の合成・分解は、比較的理解できている。・1位数の計算でも、指や算数ブロック等を使う児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・基本的な計算の仕方を理解していない児童がいる。量感や時間の単位の理解がいまいである。	<ul style="list-style-type: none">・数の分解・合成、九九が苦手であるため、素早く正確に計算することが難しい児童が多い。・時刻と時間の求め方やその関係性の理解が不十分な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・目標値を上回っている。・整数・小数・分数のしくみや計算の仕方が身に付いている児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・目標値を下回っている。・大きな数の位取りを理解している児童が多い。図形の性質の理解が不十分な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・目標値とほぼ等しい。・図形や割合の意味や性質について理解している児童が多い。小数のかけ算・わり算の計算の仕方が身に付いていない。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・自力で文章問題を読み取って、立式することが難しい。	<ul style="list-style-type: none">・文章問題を正しく読み取れず、立式することができない児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・問題の場面を正しく捉えて立式することに難しさを感じている児童が多い。・図を用いて考えるよさを実感している児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・目標値を上回っている。・計算の仕方を説明し、図に表すことはできる。・長さ、重さの説明をするような問題の正答率が低い。	<ul style="list-style-type: none">・目標値を下回っている。・計算や考察が目的に合う理由を説明するような問題の正答率が低い。	<ul style="list-style-type: none">・目標値をやや下回っている。・図を基に示された計算の説明をするような問題の正答率が低い。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・算数ブロックや計算カードなど、学んだことを使って練習に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・ブロックを操作するなどですんで学習に取り組むが、学んだことのよさに気付いて生活に活用することにつながらない。	<ul style="list-style-type: none">・学習意欲は高く、新しいことを学ぶ喜びやよさを感じながら取り組んでいる。・学習したことを生活やその後の学習に生かすことにつなぐににくい。	<ul style="list-style-type: none">・目標値を上回っている。・学習意欲の高い児童が多いが、主体的に学習に取り組む個人差がある。	<ul style="list-style-type: none">・目標値を大きく下回っている。・学習意欲はあるものの、苦手な領域には、主体的に取り組む児童が少ない。	<ul style="list-style-type: none">・目標値をやや下回っている。・学習意欲はあるものの、主体的に学習に取り組む個人差が大きい。

3 課題と授業の改善策

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・10までの加法や減法を正確に計算する力を身に付けること。・数や量の感覚を身に付けること。	<ul style="list-style-type: none">・量感や時刻と時間の単位と関係の理解をすること。・2位数±2位数の繰り上がり、繰り下がり、筆算を正確に行えるようにすること。	<ul style="list-style-type: none">・数の分解・合成や九九などの計算を素早く正確に行えるようにすること。	<ul style="list-style-type: none">・九九、繰り上がりや繰り下がり、の計算を正確に行えるようにすること。・1より小さい数の大きさを数直線上に表すこと。	<ul style="list-style-type: none">・図形の性質や分度器などの道具について正しく理解し、既習事項を活用できるようにすること。	<ul style="list-style-type: none">・倍数や公約数などの意味を理解すること。・整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。・小数のわり算の計算を正確に行えるようにすること。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・情景絵や文章から、問題の場面を正しく捉え、演算決定をしたり、立式をしたりすること。	<ul style="list-style-type: none">・文章問題を正しく捉え、立式する力を付けること。	<ul style="list-style-type: none">・時刻と時間の関係性を捉えて考えること。・文章問題の題意を正しく捉えること。	<ul style="list-style-type: none">・データを正確に読み取り、特徴や傾向を捉え、考察すること。	<ul style="list-style-type: none">・図や式などを用いて、問題場面を表現できるようにすること。	<ul style="list-style-type: none">・図や式などを用いて、ある2つの数量の関係の比べ方を考察し、場面にあった演算決定をすること。

	主体的に学習に取り組む態度	・算数を学ぶ楽しさは感じているが、自分でよく考えて発表したり、生活に結び付けて生かしたりする児童が少ないこと。	・算数を学ぶよさや楽しさを実感している。積極的に手を挙げるが理解をしていない児童がいる。	・学習したことを生活やその後の学習に生かすこと。	・算数の学ぶことのよさに気付いているが、苦手意識のある問題に対して取り組む意欲が低い児童がいること。	・数学のよさに気付いているが、面積などの量感を意識できない児童が多くいること。	・数学のよさに気付いているが、多面的に捉え検討し、生活や学習に活用できない児童がいること。
授業の改善策	知識・技能	・数の合成・分解を（特に１０までの数）を繰り返し練習する。 ・計算カードを活用し、反復練習の習慣を身に付ける。	・実際に長さを測る活動など算数的活動を多く取り入れる。 ・繰り返し計算練習に取り組み、定着を図る。	・授業の導入で既習事項の復習の機会を設けるなどして、定着を図る。 ・手遊びゲームやフラッシュカードなどの活動を繰り返し取り入れ、数の分解・合成・正確な九九を身に付ける。	・授業の導入で既習事項に繰り返し触れるなどを通して、定着を図るようにする。 ・毎時間、前時の振り返りを行い知識・技能の定着を図る。	・公式の意味など、実感を伴って理解させ、知識・技能の定着につなげる。 ・小学校で学んだ四則演算（特に小数のわり算）などの基礎基本を確実に身に付けさせる。	・これまでに学んだ四則演算（特に小数のわり算）などの基礎基本を確実に身に付けさせる。 ・整数の性質は、具体的な場面に即して指導し、特に意味の理解を図れるように繰り返し指導する。
	思考・判断・表現	・声に出して文章を読んだり、絵やアレイ図、言葉に表したりしながら、題意を理解し演算決定や立式をさせる。	・文章問題の場面を、簡単な図（テープ図）に表す方法を考えさせるようにする。	・時計の針の動きを観察したり、数直線の日盛りやその間について観察させたりすることを通して、実感を伴って考えさせる。 ・文章問題で分かっていることや求めることに下線を引いて丁寧にたしかめ、問題場面を正確に把握させる。	・着目する視点を明確に示し、自分の考えをもたせる。また、自分の言葉で説明ができるように、説明する時間を設定する。	・解決方法や結果について見通しをもたせ、既習事項を活用して、自分の言葉で説明できる時間を設定する。	・数直線を活用して、数量の関係や立式の根拠を説明する活動の時間を多く取り入れる。
	主体的に学習に取り組む態度	・既習事項と結び付けて考える習慣付けを図る。 ・算数を学ぶことが楽しいことを実感し、自分の考えを安心して発表できるような雰囲気づくりを行うようにする。	・算数的活動を多く取り入れ、自分の考えに自信をもたせるようにする。	・めあてに立ち戻り、自分の言葉でまとめを書かせる。 ・生活に生かせる場面を紹介して意識付けさせたり、見付けて気付かせたりさせる。	・実態に合わせた指導計画を作成したり、授業中に声掛けたり、補習などで習熟させることで、前向きに取り組めるようにする。	・各単元と関連する既習事項を想起させ、定着を図りながら理解を深める指導を行う。	・少人数での学び合いを通して、生活や学習に生かせるような気付きを得る機会を設ける。